
あねもね

京橋藍

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あねもね

【Nコード】

N4728J

【作者名】

京橋藍

【あらすじ】

兄妹という関係でも玲人は莉奈が好きで、でも親には言えない。もう信じられる人はいない…？
絶壁に立たされた玲人と莉奈は…？

ぶろろーぐ（前書き）

ちょっと悲しいお話…かも。頑張って書くのでよろしく願いしますw

ぶろろーぐ

君さえいれば

少しの痛みなんて感じない。

君さえいれば

何も怖くない。

君さえいれば

もうなにもいらない。

君さえいれば…

俺の隣に

君がいたなら

・・・

君がいたなら・・・

どんなに幸せなのだろうか。

俺の思いは夢くて。

いきなり降りてきて

何も言わずに去ってゆく。

そして

…そして

消えてゆく。

「お兄ちゃん。」

そう俺を呼ぶことによって

俺が傷を負ったかなんて知ることもないとしても。

君が俺のような感情を持たないとしても。

永遠の

…

永遠の片想いだとしても…。

- - * - - * - - * - - * - - * - - * - -

「玲人、いい加減兄という自覚を持ったらどうだ…?」

自覚。

俺が小さい頃に言い続けられてきた言葉。

何故か、莉奈が妹だという事実には背き、

普通の女の子として接してきた俺。

それが、

…好きだという感情だと知ったのはそれから少し経ってからで。

そして、

莉奈と俺は

俺は…

結ばれない関係であるということを知ったのも

それから少し経った頃で。

ずっと、莉奈に対して

“妹”

に対しての『好き』

ではなく、

違った…

特別な感情を持っていた俺にとって

絶望の他何でもなかった。

ぶろろーぐ（後書き）

続くー！よね？！

朝寝坊（前書き）

玲人くんはお寝坊さんですね、ハイ。

これはまだ

序章に過ぎないのだっ！↑序章はもう終わった。
生粋の日本人とは思ってない文章力。

朝寝坊

「ちよっ！父さん！！おきてるんだったら俺も起こしてよっ！」
寝坊だ…

「起きてるからって父さんに玲人を起こす義務はないぞー」

う…

父親としてのあれは？！↑あれって何。

「あ、お兄ちゃんおはよう。いつ起きたのー？」

そして

悠長にチョコレートを塗った…いや、塗りたくった
パンをほおばっているのは

莉奈。

「ん…ああ…えーと…7時過ぎくらいかなー？」

って！俺時間ないんだって！！！

いつもこうだ…。

!!!!!!!!!!

時計を見た俺に…
悲劇は待っていた。

「8時10分?!」

やばいつて。

駄目だつて。

遅刻だつて!!!!

学校に8時25分につかなければならない。

チャリをかつ飛ばして…

いけるな。

「お兄ちゃんっ！ちょっと!!!!まってまって。お弁当忘れてるっ
て！」

あ、ほんとだ。

「ありがと…莉奈。」

普通の家族のように

普通の妹のように

振る舞う。

兄妹という関係。

本当は投げ捨てたい気持ちでいっぱいだ。

でも、受け止めないといけない事実。

だから、

「いつてきまーす」

もうどーでもいいやーっ

って

思っことにした。

勝手に好きでいいやーっ

って。

でも、俺がずっとそう思っ

自分を抑え続けることはできなかった。

そんなこと、

俺は初めから分かったのかもしれない。

朝寝坊（後書き）

どうでしたっ？！

感想とかじゃっこじゃこでござっ！
↑

続くぞー！多分！w

黒安（前書き）

ほとんどが玲人の独り言ってか心境です。

黒安

「おはよ。玲人っ！お前今日も遅刻かと思ってたのにぎーんねーん。なんで遅刻しないんだよっ！お前が遅刻したら朝のHRは短くなるのによー。」

「ウザいから黙ってるって。」

「うわ。ウザいとかひどーいっうわーーんっ」

「きもい。一回死んできなよ。いや、一回とは言わない。永遠に帰ってくんな。」

「酷さが増してんぞーっ！ひどとのばかやろー」

「……………」

「無視っ？！シカトかよっ」

こいつは木崎慎也^{きざきしんや}。幼稚園のころから一緒な

ただのバカ。

「あ、そーいやさ、お前の妹…莉奈ちゃん？だっけ？なんかさ、5組のやつが告ったってんだってさ。」

「お兄ちゃんとしては嫌じゃね、ほら…5組の…確か…」

黒安くろやすだっけな。いたじゃん？あいつだよ。

それなりにモテるけどあいつは好きじゃねーな。気取ってやがる。

「

……………！！！！！！！！！！

「そ、そうなのか…」

気が気じゃない。

5組の黒安智也くろやすちや…

莉奈があいつに惚れないという確証はない。

眉目秀麗と言つ言葉は

彼のためにあるのではないか。とまでもおもわせるほど整った顔。

慎也はそれなりにモテるとか言ってるけど

それなりどころじゃないらしい。

漫画とかアニメとかのように

バレンタインデーはチョコなだれが見られるとか

お弁当は持っていなくても女子がくれるとか。

こいつは気取ってるとかいってるけど

そうじゃないと思う俺的に。

いつも寝ぐせで頭はぼさぼさだし

授業中は寝てるし。

遅刻してくることはさすがにないとしても

だらだら生活してるように思う。

でもそういや最近寝ぐせ直してきてるかもしれない。

女子たちは黒安君に好きな人ができたんだー！

とか言って騒いでた、かも。

…それが莉奈？ありえないでしょう。

だって俺らは高2で莉奈は中3だし…

会わないような気が。

なんでだろうか。でも、もし…莉奈が告白を受け入れたら

俺はどうすればいいのだろうか。

やっぱり、兄としては優しく見守る…とか？

そんなことできない気がするんだけど。

黒安（後書き）

続くぜっ！たぶんね、うん。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4728j/>

あねもね

2010年11月12日20時19分発行